

2024年 11月 10日 << 聖餐式 >>

主 日 礼 拝 午前8時半 / 10時半 / 夜7時

司 会 石井 秀人兄

奏 楽

祈 禱 白川 達男兄

賛 美 聖歌516番「世人は敵に」
～主イエス神の愛～

十 戒

聖書朗読 使徒行伝24章10～16節

特別賛美 香月 健兄（独唱）

メッセージ 「望みに生きる道」

石井 潤 牧師

聖 餐 式 賛美「主イエスの十字架の血で」

献金・讃美 聖歌229番「おどろくばかりの」

祝 禱

お知らせ 〔司会者〕

賛 美 ～喜びがある～

☆礼拝にお越しくださった皆様を心よりご歓迎いたします！☆
《今週のお知らせ》

☆本日は聖餐式を通して主の十字架と復活の恵みを覚えます。午後は執事会。

★祈禱会は、①明朝6時。②木曜午前10時半/夜7時半。③土曜夜8時。

☆木曜午後2時から、上田市大手の石井兄姉宅にて家庭集会が行われます。

☆来週の日曜礼拝は収穫感謝礼拝です。第二礼拝後に教会堂の大掃除をします。

☆★一年に一回聖書を完読できる！ Bible Reading Plan [11/10- /17] ☆

Date	日	月	火	水	木	金	土	日
聖書箇所	エレミヤ 49-50	51	52/哀歌 1-2	3-5	エゼキエル 1-4	5-8	9-12	13-15
チェック	〇〇	〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇

「望みに生きる道」

～キリストの生きた苦悩の人生を私たちも生きている～

「『わたしがどこへ行くのか、その道はあなたがたにわかっている。』トマスはイエスに言った、『主よ、どこへおいでになるのか、わたしたちにはわかりません。どうしてその道がわかるでしょう。』イエスは彼に言われた、『わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。』」ヨハネ14章4～6節

パウロは、自分自身がもともとは熱心なユダヤ教徒であり、その教こそが真理であり、人生のすべてをかけるものだった。しかし、その教に背くと思われるイエスが率いるナザレの一派が誕生して、そのリーダーがいなくなってもなお、更に力を持って成長していく、その脅威を取り除くべく必死になるパウロの前に、イエス様が直接現れました。とんでもないことが起こったとパウロは感じましたが、もう、彼の心は大きく揺れ動き、自分の人生を根底から変える必要があることに気が付かされました。ユダヤ人たちの先祖であるアブラハム、イサク、ヤコブ…モーセ…ダビデ、そして、預言者であるイザヤ、エレミヤ、ダニエル…。彼らが待ち望んでいた神から遣わされた救い主、メシヤはこのイエスだったのだ！と悟ることとなりました。

そして、その道そのものであるお方を主を呼んで、そのイエスの御名によって、奇跡を起こし、神の栄光を現すという現実を体験するようになります。

そして、このイエスこそが、人類の希望であり、命そのものであることを宣教するという使命を担っていくようになります。

「キリスト教」というふうに言われますが、正確には「道」と言われます。元々のキリスト教の呼び方でもあります。それは、生き方そのものであり、救いの道、希望へ至る道、命へ至る道ということです。英語では、「The Way」と記されています。それは、「道」という意味だけではなく、「道理」「方法」「人生」「道しるべ」とも言えると思います。日本では、様々な「道」があります。「華道」「茶道」「柔道」「剣道」…。それは、その表現の仕方を通して、その人の人生を生きる道として学ぶという部分があると言えます。永遠の希望へと導かれる「道」がイエス・キリスト様ご自身です。また、イエス様はこの世でどのように苦しみを通してべきかを身をもって体験したお方でもあります。「キリストは、その肉の生活の時には、激しい叫びと涙をもって、ご自分を死から救う力のあるかたに、祈と願いとをささげ、そして、その深い信仰のゆえに聞きいられたのである」（ヘブル5章7節）。イエス様は御自身が救い主なら、神であるなら、涙も苦しみも祈りも信仰も必要ないだろうと考えてしまいますが、その人間としての歩みの中で、大いに苦しんで、叫びながら、神を求め、祈りつつ、信仰を握りしめながら、この地上での人生を全うなさったということです。

私たちの人生も同様です。苦しみの中でも、希望をしっかりと握りしめながら、祈り、叫びつつ、この人生を全うしていくのです！